

「全国学力テスト」の結果と課題は

答 学力向上は喫緊の課題



南里 正秀 議員

問 「全国学力・学習状況調査」の結果が公表された。

調査の目的と本町小中学校の状況は。

答 学校教育課長

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、学習状況を把握、分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的。

本町小中学校は全国及び福岡県平均以下、中学校は国語B以外は全国平均以下。

近年の傾向として全体的に下降気味である。

問 学力向上のためには、教員が子どもたちと笑顔で向き合う時間の確保が大事。

「過労死ライン」を超える時間外勤務が問題となっているが、本町教員の実態は。

答 課長 詳細な調査は実施していないが、超過勤務の縮減に向けて、月2回の定時退校

日の完全実施やノー部活動の実施などに取り組んでいる。

問 児童生徒の健康管理のため、普通教室にエアコンを設置している自治体が増えている。

学校は災害時の避難所としての機能も持っている。

ミストシャワーや扇風機などの代替策も含めたエアコン設置の検討は。

答 教育長 現在、井野小学校の普通教室の外壁にミストシャワーを設置し、その効果を検証中。

結果によっては、他の教室への設置も検討する。

問 子育て世代の方が、宇美町に住みたいと思われる要素のひとつに、学力を含めて自分子どもが通う学校の状況が判断材料になっているのではないか。

本町教育機関の最高

責任者として、小中学校の学力低下の現状をどのように捉え、学校現場、特に、校長をはじめ管理職を指導されていくのか。

答 教育長 本町の学力向上は喫緊の課題と認識している。

管理職には、主体的で対話的な授業の重要性を訴え、学力の向上に結びつけたい。

問 行政のトップであるとともに、小学校長や県教育委員会勤務の経歴を持たれ、教育の専門家である町長の見解は。

答 町長 学力向上は喫緊の課題であり、課題解決に向けて、行政、学校現場、家庭が緊密な連携を図り、コミュニティ等地域の協力もいただき、宇美町版の取組を推進したい。



学力向上推進担当者研修会



藤木 匠 議員

産業廃棄物処理業者の障子岳への進出について

答 県と連携の上、指導等を行う

問 ホクザイ運輸(株)の障子岳への進出について伺いたい。

答 同社は、建設廃材を持ち込み、それをチップ化し、燃料等に加工する工場を建設する計画である。

当町には、水道水源保護条例があるが、協議の中で、その条例の話は出たのか。

答 上下水道課長 今回の申請は、産業廃棄物処理業で、申請者から事前に条例についての内容の確認があった。

問 条例を適用しなかった理由は。

答 課長 条例では、目的として「水道に係る水質汚濁の防止、清浄な水質を確保する」と定めている。今回の計画内容を確認すると、全ての作業が建屋内で行われ、原料、製品化されたチップ等の保管の一切は、野積みではなく、屋外での貯蔵は行われない。当然、雨水等によつ

て地下への浸透及び外部への流出がなく、条例の目的を阻害する恐れが低いことから適用できなかったと判断している。

問 野積みは一切ないとのことだが、野積みがなされた場合は、協議を再開するのか。

答 課長 これについては、罰則規定は設けてあるものの、再協議の規定はない。ただし、水道管理者としては、申請内容と異なるので、指導監督は行う。

問 早見く障子岳線の交通量は、片道1日最大99台で、往復になると約200台の事業者車輛が予測され、福岡刑務所の関係車輛を合わせたると、約450台の車輛が通行することになる。

朝夕、大型車輛の渋滞で、歩行者、バイク、自転車は、非常に危険にさらされるが、安全対策は、また、道路整備を優

先し、事業認可を延期できないか。

答 建設都市計画課長 現状の交通量を大きく上回ると考える。地元説明会において、交通安全に関しての意見が多かった。事業者がそれについて、対応・対策をどうとるかを見ながら、道路管理者として一緒に協議・検討したい。

認可の延期等は、県都市計画審議会で判断されるため、現時点では、何とも言えない。

問 朝夕、大型車の行き来が懸念されるが、振動や排気ガス、ほこり等の環境問題は起らないか。

答 環境課長 周辺環境に及ぼす影響については、環境基準、道路交通の要請限度を下回ると説明を受けている。環境予想が外れ、基準値等の上限を上回った場合、町としても見過ごしはできず、県と連携の上、指導等を行う。



工場建設予定地 (障子岳)